

令和5年8月吉日

「COVID-19 流行による入院患者周辺の「ケア環境」の変化と看護マネジメント

:多施設を対象とした記述的研究」

看護部長 様へ

研究参加のお願い（依頼）

残夏の候、貴院におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

2019年12月に発生したCOVID-19は、2020年3月、WHOから世界的なパンデミック宣言が出されました。国内においては、2020年4月に緊急事態宣言が発出され、その後、緊急事態宣言の解除および発出が繰り返され、今なお人々の生命・健康や社会経済活動に影響を与え続けています。

これにより、日本の医療提供体制は刻一刻と変化する状況の中で、医療従事者から患者への治療的および日常生活上のケアが提供されています。そして、感染管理や患者管理・職員管理・職員への配慮など、マネジメントをするうえで役立つ手引きやガイドラインは複数公開され、感染管理や患者管理、職員管理等について知見が活用できる状況となっています。

また、療養環境に与えた影響に関しても一定の領域分野では環境に関しての変化は明らかになっており、更に、病院や病棟の看護管理者による療養環境の調整としては看護管理者が患者や職員に対し目を配り、全体を調整していたことが明らかになっています。

しかし、患者側に立ち、COVID-19患者を受け入れている病棟や院内全体としての状況や一般病棟のケア環境がどのような影響を受けたかの知見は少ないように思われます。看護は対象が本来もつ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行う役割があり、パンデミック時に患者の療養環境がどのような影響を受けるか、看護職としてどのように患者の療養環境を調整できるかを明らかにすることは重要であると考えます。

本研究では、日本における全地域の網羅的調査を行い、COVID-19のパンデミックにより、入院患者のケア環境が、患者側に立って概観した場合、どう変わったのかの実態を明らかにし、本来提供すべきケア環境に近づけるために看護職が変化に対してどのように対処したのかを明らかにし、広く共有したいと考えます。

これにより、今後も発生しうる新興感染症対策に向けた医療体制の整備や看護管理実践への、すなわち、入院患者のケア環境を守るために役立つ示唆を得ることができると考えます。

何卒、調査へのご参加をお願いいたします。

【研究代表者】

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学病院 医療情報部
TEL : 093-603-1611(代)
部長 林田 賢史

【地域研究代表者】

〒060-0011 北海道札幌市中央区北 11 条西 13 丁目
札幌市立大学 看護学部
TEL : 011-726-2500(代)
名誉教授 中村 恵子

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1
東北大学病院 看護部
TEL : 022-717-7000(代)
副部長 佐々木 百合花

〒113-8655 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学医学部附属病院 看護部
03-3815-5411(代)
部長 武村 雪絵

〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1
関西医科大学
TEL : 072-804-0101(代)
理事・統括看護部長 安田 照美

〒814-0001 福岡県福岡市早良区百道浜 2-4-16
国際医療福祉大学 九州地区生涯教育センター
TEL : 092-407-0434(代)
副センター長 神坂 登世子

【研究に関する連絡先】

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-3-3
株式会社ケアコム
TEL : 050-3816-6300(代)
代表取締役社長 池川 充洋
事務担当 山崎 清一
s_yamazaki@carecom.co.jp